

編 集 後 記

この数年間で携帯電話機能が向上し、学生との連絡も携帯メールでの連絡が増えています。今後のシステム構築にはPCだけではなく、携帯電話からの利用も視野に入れなければならないなど、環境整備上の悩みは尽きません。次号あたりには携帯電話によるシステム構築が特集になっているやもしれません。(野坂)

前任委員との引継ぎが十分でなく、総合情報処理センターの教育広報委員としての自覚があまりないまま、委員長はじめ各委員、事務担当の方々にはご迷惑をお掛けしました。また、担当した原稿についても提出期限を厳守できず、恥じ入るばかりです。

さて、これまでHIROINを受け取る立場から、今回発行する立場となりました。しかし、ほとんど具体的な提案をなにもできないまま、自分の担当記事を書くだけで手一杯でした。

担当記事の農生サテライトについての状況の整理を終え、そして編集後記を書く段階になり、改めてHIROINって読んでもらえるのだろうか?、ということをもとに考えてみると、日頃Webページの閲覧と電子メールにしかコンピュータを使わないようなユーザにもっと焦点を当て、学内の情報ネットワークをいかに利活用してもらうのか、という視点が重要な気がしています。

(情報ネットワーク、コンピュータは技術の進歩が著しく、図書館やトイレ並の基盤であるのに、ようやく使い方を覚えたと思ったら、そうではない新たな使いこなしを強いられる、ということが多くて、閉口している人間のつぶやきです。) (藤崎)

出張先のタイ王国バンコク都内から編集後記を書いています。東南アジア諸国では無線LAN環境よりも、インターネットカフェが充実しているため、Webメールは非常に重宝します。しかしタイ国内のインターネットカフェのPCはウイルス対策が万全でないことが多く注意が必要です。また、このような場所では、パスワードの管理を厳重にする必要があります。インターネットカフェで、メールを接続した後は、安全な接続環境からのパスワード変更をすぐに行ってください。(佐藤)

暖冬と思われた今年の冬も結局つけを払う形で雪の多いいつもの冬になってしまいました。今年度の広報HIROIN No. 25をお届け致します。ネットワークが電気水道と同様のインフラと認識されるまでに時代は変わってきたと感じておりますが、まだまだ進歩を続けているインフラであり、利用する側にとってもコンセンストに差し込んで終わりで行った状況までは行っていません。情報が流れる学内ネットワークもネットワーク技術の進展に伴い適切な間隔で更新して行く必要があります。パソコンの低価格化と高性能化に伴いセンターの計算機資源の利用者は減少してきていますが、ネットワークとサーバ(特にメール)は学内のほぼ全員が利用しております。利用者はセンターの提供するインフラを利用していると認識をしていますが、縁の下の力持ちと

してセンターの役割と重要性は増してきております。HIROIN でも今後ネットワークに関しての特集を検討したいと思います。

センターのシステム更新が終わって1年が過ぎましたが、3年後のシステム更新のための準備として各種情報の収集も必要です。この点に関しても HIROIN で特集しても良いでしょう。HIROIN 自体をCD-ROM 化して出版することも検討されましたが、やはりアナログメディアである紙媒体の方がアクセシビリティが良いであろうとの判断で製本した形での出版となりました。デジタルメディアとしてはセンターのウェブページから pdf 形式のファイルにアクセスできますのでこちらがお好みの方はご利用下さい。(丹波)

弘前大学総合情報処理センター
教育広報専門委員会

丹 波 澄 雄 (委員長・理工学研究科)

野 坂 大 喜 (保健学研究科)

藤 崎 浩 幸 (農学生命科学部)

佐 藤 友 暁 (総合情報処理センター)